

(総括評価表〔付表：戦略11〕)

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦略	【戦略11】熊本都市圏の拠点性向上 ～将来の州都をめざします～	施策数	取組数	H24事業数	H25事業数	H24決算	H25予算
				5	8	31事業	30事業	11,777,658千円	16,182,157千円

1 戦略の内容

(1)現状と課題
新幹線全線開業や政令指定都市移行により、人・物・情報等の交流が拡大しつつあります。この機を逸することなく、こうした効果を最大化し、県・政令指定都市の連携やハブ機能の強化により県内全域へ波及させるとともに、九州における熊本の拠点性を向上させることが求められています。

(2)概要
熊本の100年の礎を築き上げるため、九州新幹線の全線開業や熊本市の政令指定都市移行の効果を、県内全域に波及させるだけでなく、九州全体の浮揚にもつなげていく必要があります。そのため、産学官による「くまもと都市戦略会議」などを通して、県・市の政策連携を強化し、相乗効果を最大化します。また、高速交通体系の機能充実など、九州におけるハブ機能を強化し、熊本が九州発展のセッター役の役割を果たすことで、“将来の九州の州都”実現につなげます。

(3)体系 (単位：千円)

① 州都をのめ展が開いた	◆州都を構想する〔施策52〕 ～州都をにらんだ構想づくりの推進～ 【担当部局：企画振興部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	1事業	2,223	1事業	1,981
	◆拠点性を高める〔施策53〕 ～熊本型県・政令指定都市政策連携の推進～ 【担当部局：知事公室・企画振興部・商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	4事業	136,889	4事業	238,069
	◆大空港構想を進める〔施策54〕 ～空港周辺地域のポテンシャルの最大化～ 【担当部局：企画振興部・農林水産部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	10事業	246,728	9事業	276,099
	◆世界的な熊本駅をめざす〔施策55〕 ～熊本駅周辺地域の魅力向上～ 【担当部局：企画振興部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	3事業	4,951,092	3事業	8,700,869
② ハブ機能の強化	◆すべての道はくまもとに通じる〔施策56〕 ～幹線道路ネットワーク等の整備～ 【担当部局：商工観光労働部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	13事業	6,440,726	13事業	6,965,139

2 戦略の評価

(1)指標の推移・分析

指標〔単位〕	策定時	H24 〔達成度・増減〕	H25 〔達成度・増減〕	H26 〔達成度・増減〕	目標値(H27) 〔単位〕	前年度からの推移の分析
① 県・熊本市の政策連携協定数〔項目〕 (熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数)	— (H23)	5 <+5>			毎年度着実に増加を図る〔項目(累計)〕	2回の会議開催等、熊本市と密接な連携を進めた結果、5項目について共同で取り組むことに合意。
② 阿蘇くまもと空港の利用者数〔万人〕	279 (H23)	285 <95.0%>			300 〔万人/年(単年)〕	東京線の利用者増により、全体の利用者は対前年比102.3%となった。
③ 熊本駅の乗降客数〔万人〕	893 (H23推計値)	920 <100.0%>			920 〔万人/年(単年)〕	〔推計値〕 新幹線の利用者増などにより、熊本駅全体の乗降客は対前年比103.0%となった。
④ 幹線道路の整備進捗率(供用率)〔%〕	41.5 (H23)	41.5 <83.0%>			50.0 〔% (単年)〕	計画では、H24年度の新規供用開始の予定はなく、H25年度以降の新規供用に向けて着実に整備が進められた。

(2)平成24年度の主な成果

- 「くまもと未来会議」での有識者の意見に基づいて州都構想を策定し(H25年3月)、県民の州都論議への参加促進に寄与。
- 「くまもと都市戦略会議」での議論に基づき、熊本MICE誘致推進機構を設立。スポーツイベント、大型コンサート等への助成制度を創設。
- 県市連携により東京ドームでのPRイベント等を実施。
- 「くまもと定住促進戦略」の策定に向け、市町村と意見交換。45市町村を個別に紹介した「くまもとくらす」を発刊。
- ソウル線の週5便化実現へ利用促進対策を強化。台湾線に向けてチャーター便を活用した知事トップセールスを初めて実施(H25年1月)。中国線に向けた中国各航空会社との交渉実施。空港利用者の利便性向上に向けた空港ライナーの本格運行への実証実験と、人材育成のため崇城大学との包括連携協定を締結(H24年8月)。
- 空港周辺の民間駐車場に対する違反広告物の是正指導に取り組んだ結果、第2空港線沿いの違法広告物撤去と統一デザイン看板設置につながり、空港周辺及び第2空港線沿いの景観が格段に向上。
- 新たな賑わいの場としての白川・坪井川に囲まれた石塘の環境整備や、観光客増加に向けた熊本駅新幹線口から北岡自然公園への散策ルートの整備を実施。
- 熊本駅周辺の屋外広告物に関し、関係事業者に広告物等の改修等に対する助成制度利用を推進。
- 九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、国道57号4車線化、熊本天草幹線道路の事業を推進。また、H24年7月に被災した国道57号の滝室坂の抜本対策として、国に事業化を要望。
- 熊本港のガントリークレーンをH24.10.29に供用開始し、H24年12月に増便が実現。荷の増加、とりわけ新規貨物の獲得の効果が発現。熊本港の物流機能を強化するための整備等の取組みも推進。

(3)平成25年度の推進方針・推進状況

- 「道州制推進知事・指定都市市長連合」活動への参画や熊本市との道州制の共同研究を実施しながら、道州制についての九州の考え方を国の議論に反映できるように努め、また、道州制や州都についての周知啓発を実施。
- スポーツイベント、大型コンサート、映像作品制作に対する助成制度を最大限活用した誘致推進。
- 熊本市と連携した首都圏向けPRイベント等や阿蘇くまもと空港の国際線振興に関する協議を継続。
- 「くまもと定住促進戦略」を策定。
- ソウル線の週5便化実現に向けたアウトバウンド・インバウンド対策の推進。台湾や中国の新規路線開設に向け、各航空会社との交渉とともに関係機関連携を強化。空港ライナーの利用者数増加に向けた広報活動強化と、パイロットのふるさとづくり推進について崇城大学と連携した各種PR活動を実施。
- 阿蘇くまもと空港周辺の農地でヒマワリやコスモス等の景観作物を栽培し、美しい空港づくりを進める団体等に対して補助を実施予定。第3空港線の1駐車場の違反広告物を是正。
- 「くまもと都市戦略会議」ワーキングチームで、これまでの取組みのフォローアップを実施。
- 駅周辺開発の状況に応じ、景観に配慮した屋外広告物設置への支援を継続。
- 九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、国道57号4車線化、熊本天草幹線道路について引続き事業を推進。また、中九州横断道路について、滝室坂道路の早期全線開通及び熊本市～大津町間の計画段階評価の早期完了を国に要望。
- インセンティブを含めた企業への働きかけやマッチングの場の設定、ポートセミナーの実施、物流・倉庫企業の誘致などに取り組み、熊本港の物流機能の強化に向けた整備等も着実に推進。

(4)戦略を推進する上での課題

- 道州制や州都に対する県民の理解の向上。
- 道州制へのステップとなる具体的な行動の推進。
- 州都についての議論の深化。
- アフターコンベンションの誘致等の体制整備。
- “学都”を切り口とした首都圏とアジアに向けた“くまもと”の発信の可能性検討や、阿蘇くまもと空港の国際線振興に向けた熊本市との連携強化。
- 移住定住の促進に関する統一イメージの発信。
- 国際線の拡充に向けた各航空会社との交渉や空港ライナーの利用者数増加のための広報活動の継続。パイロットのふるさとづくり推進について、阿蘇くまもと空港及び天草空港におけるパイロット養成等に適した施設環境等のPR。
- 該当市町村による景観農業振興地域整備計画の策定。

(5)今後の方向性

- 市町村との意見交換を行い、地方の立場から道州制の議論を十分に進展させ、また、州都論議への県民の主体的参加を促進。
- スポーツイベント、大型コンサート等の毎年2回以上開催をめざした誘致活動の展開。
- 阿蘇くまもと空港国際線を活用したコンベンション誘致、県・市共同のトップセールス。
- 定住促進戦略に基づく具体的施策の展開。
- 路線強化や、空港の利便性・拠点性の向上、空港周辺の魅力向上等の各個別取組みを着実に推進し、「品格あふれる美しさ」「先端技術産業の知の集積」「九州を支える空港」という3つの役割が調和した「日本一広く美しい空港」の実現に向け取組みを実施。
- 美しい農村景観を維持するため、農振法・農地法の違反が新たに生じないよう取組みを実施。
- 空港周辺民間駐車場による違反屋外広告物の是正指導や、周辺建築物の法令違反状態の解消に向けた指導等を継続実施。
- 熊本駅乗降客数が920万人/年となるよう取り組み、熊本駅から中心市街地に向けた賑わいづくりを促進。
- 屋外広告物設置助成制度の周知を通じ、景観に配慮した屋外広告物の設置を推進。
- 幹線道路整備進捗率50%の実現に向けた取組み及び新規事業化された幹線道路(滝室坂道路、本渡道路)の事業を推進する取組みの実施。
- 熊本港の一層の利用拡大に向け、地元市や港湾関係企業等との積極的な協力体制を構築。